

岡崎市行財政改革大綱（案）への意見と市の考え方

No.	意見	市の考え方
1	<p>職員がプライベートで得た知識や人脈を本業の仕事として活用できることはとても良いことだと感じます。人事異動だけでなく、横軸をさすプロジェクト等でも「飛び出した」人材の上手な活用方法ができていくことを強く期待しています。今後、ますます人材の流動性や思いを持った人材が活躍できるフィールドが行政組織のなかにもあることが重要視されていくと感じています。</p>	<p>ご指摘のとおり、人材の育成や人材の活用に関することは今後重要になると考えています。</p> <p>まず、人材の育成については、3ページ「スマートでスリムな行政運営の先に」、 「市職員でなければならない分野に経営資源を集中的に投資する」とありますように、最終的に行政が高度なサービスを展開していくためには人の手によるところが大きく、職員の資質・能力が今以上に必要との認識でいます。</p>
2	<p>人材育成のために、公務員パラレルキャリアの促進や民間人材の高度人材登用制度も活用していくことで、今以上に人材育成や人材の能力向上に寄与します。</p> <p>公務員だけではなく外の視点を活用することがVUCAの時代に必須になってくるため、外部人材活用の促進も含めると良いと感じます。塩尻市、生駒市や鎌倉市といった自治体をはじめどんどんと民間人材活用も行われているため岡崎市においても実施していけるものだと思います。</p> <p>民間人材の受け入れだけでなく、公務員の民間出向や副業解禁といった部分をとおした「稼ぐこと」の意識や知識を実際につけていくことが大事になってくると思われます。研修だけでなく、ビジネスの現場で学ぶことが今後の行政経営に役立つためです。</p>	<p>そのためには、「戦略」を実践し事務事業のスリム化を進め、高度な行政サービスに投資できる経営資源を生み出していくことが大切だと考えています。</p> <p>また、5ページ「(4)Smart&Slimな人材の育成」にありますように、「戦略を実践できるチャレンジ精神に溢れた創造的な人材の育成」も同様に重要な取り組みであると考えています。</p> <p>次に、人材の活用、特に意見をいただいている民間人材については、4ページ「(1)多様な主体との連携」にありますように、「民間の活力やノウハウを活かした持続可能で良質なサービスを提供する」取り組みの中で、民間などの外部の刺激を岡崎市に合う方法で取り入れることを考えています。</p> <p>いただいたご意見については、岡崎市行財政改革推進計画の策定の際に参考とさせていただきます。</p>
3	<p>東京都や神戸市みたいにIT専門職の新規・中途採用や全新規採用職員にICT活用の勉強をさせることで、人材育成に寄与すると思われます。</p> <p>DX(デジタルトランスフォーメーション)を進めていくために、今の職員たちのITリテラシーのレベル差があるように感じます。プログラミングができるようになる必要はないですが、IT活用方法、ITエンジニアとのコミュニケーションや考え方を知ることができるようなことが必須です。研修では限界があると思うため、民間人材の登用や「技術職」採用と同じように「IT職」採用といったような専門性に特化した職員を採用し、その人に講師や研修等も実施していくことが重要だと感じます。</p>	

4	<p>こういう活動をしていることを市民にPRしてほしい（広報に記してあるだけでは頭に入らない）</p>	<p>今回、行財政改革大綱（案）のパブリックコメントを市の広報誌やHP、各支所等で印刷物の閲覧が対応できるように実施し、岡崎市が今後 10 年間で取り組むべき内容を見ていただくように様々な方法でPRいたしました。</p> <p>今後の予定としましては、行財政改革大綱を定め、大綱の考え方をより具体的な形に現わす行財政改革推進計画の策定をして市民の皆様にPRする予定です。</p> <p>PRの方法としては、市HPに掲載するほかに、市役所の行政経営課及び情報コーナーでの印刷物の閲覧を実施します。</p> <p>また、行財政改革大綱や推進計画をテーマにした生涯学習出前講座も取り組みたいと考えています。</p>
---	---	--